

「読むこと」を思考・判断・表現する活動へ つなげる授業デザインの探究

徳島県立小松島高等学校 久保早耶香

1. 主題設定の理由

小松島高校では、校長主導のもと有志の教員が集まり、新学習指導要領の施行に先立ってグランドデザインを策定した。そこでは「自分の物語をつくる」というキャッチフレーズのもと、「自分とむきあう」「人とむきあう」「世界とむきあう」という3つの柱のスクールポリシーを掲げ、それぞれの柱の学年ごとの到達目標を示した松高ループリックが設定されている。その目標を達成するために、教科、特別活動、人権教育、総合的な探究の時間がどう貢献するかということを考えてきた。英語科でも、松高ループリックを教科に落とし込んだループリックを作成し、そのループリックに沿ってCan-doリストを設定した。幅広い学力層やニーズのある本校生徒に対して思考力・判断力・表現力の育成を目指すには、生徒の認知スタイルに合わせた多様なアプローチを試みたり、パフォーマンステストの評価方法を工夫したりすることが必要であると考え、本主題を設定した。

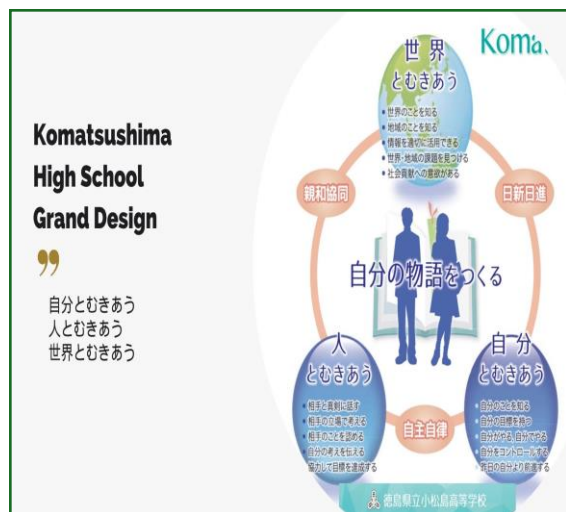


図 1 松高グランドデザイン

資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3 (3年終了時の到達目標)	レベル4	F
① 自分と 向き合う	・自分について情報を収集し、自分の長所を知っている。①-1 ・自分は集団の一員だと感じることが出来る。①-2	①-1、2 ・見通しを立てることが出来る。①-3 ・自分をコントロールし、学びに向かい、試行錯誤を重ねることが出来る。①-4	①-1～4 ・自分の不完全さを受け入れることが出来る。①-5 ・試行錯誤や振り返りを通して粘り強く問題の解決にむかうことが出来る。①-6	①-1～6 ・試行錯誤や振り返りを通して粘り強く問題の解決ができていく。①-7	いずれも満たさない
② 人と 向き合う	・相手に関心を持ち、相手の立場にたつことが出来る。②-1 ・共感的態度をもって話をすることが出来る。②-2	②-1、2 ・相手に理解してもらえるように、言葉や非言語能力を使って自分の考えを述べたり、コミュニケーションをとったり出来る。②-3	②-1～3 ・他者を信頼することが出来る。②-4 ・仲間と協力して目標を達成しようとする事が出来る。②-5	②-1～5 ・仲間と協力して目標を達成できる。②-6	いずれも満たさない
③ 世界と 向き合う	・自分が住む地域や世界について情報を収集している。③-1	③-1 ・世界や地域の課題を見出している。③-2 ・解決にむけた取り組みを考えをめぐらせることが出来る。③-3	③-1～3 ・情報を適切に活用することが出来る。③-4 ・自分を生かして社会や他者の役に立ちたいと考えて行動している。③-5	③-1～5 ・自分を生かして社会や他者の役に立ちたいと考え、行動し、周囲に働きかけを行っている。③-6	いずれも満たさない

図 2 松高ループリック

2. 実践の方法

(1) 「読むこと」を思考する活動へつなげる橋渡しの方法

「読むこと」を思考・判断・表現する活動へ繋げることを目標に掲げ、様々な工夫を行った。まず「See Think Wonder」と呼ばれる活動を授業の最初の5分の帯活動として導入し、生徒に読む前から疑問を持たせることで、読む目的意識を高めようとした。教科書に添付されている写真や教師が用意した題材に関連する画像・動画を見て、ペア活動で “What do you see?” – “I see blue letters.” “I see two people smiling at each other.” など、見たものを描写す

る表現を言い合う。その後、“What do you think?” – “I think the blue letters are stylish.” など簡単な意見を言い合う。さらに “What does it make you wonder?” と聞き、“I wonder why the letters are blue.” など疑問を喚起し、それを言葉にして伝え合う。この疑問が生徒自身から生まれた読解の問いとなり、疑問を解消するために、教科書を読むという順序を経ることで、自然に目的を持って読解するという自然な流れを生み出すことができればと考えた。

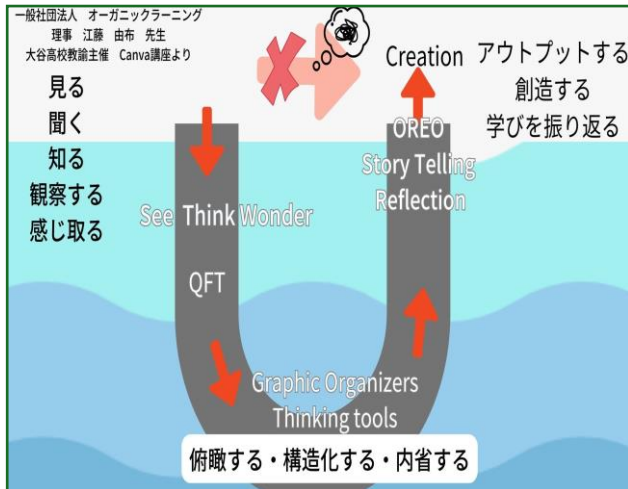


図 3 発表プレゼンテーションより 一般社団法人
オーガニックラーニング Canva 講座スライド資料より
提供いただいたものを一部改変

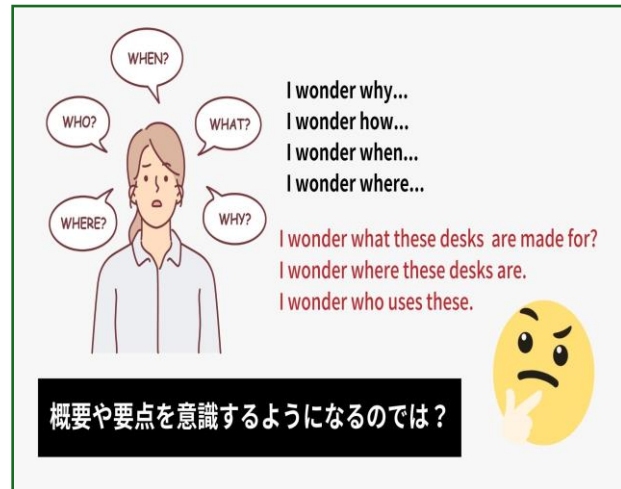


図 4 発表スライド資料より

(2) 判断・表現への橋渡しの方法

教科書の本文の一部分が説明文であり、その他の部分はインタビュー形式であったため、インタビューを第三者視点に書き換える活動により、説明文の構成を理解させるとともに、どこが要旨であり、どのような表現を用いれば、第三者的視点で説明文が書けるかということを判断することを求めた。また、他のユニバーサルデザインに関する英文を読み、それに対する自分の意見を述べる活動においても、一定量の英文を書くことができるようになった。

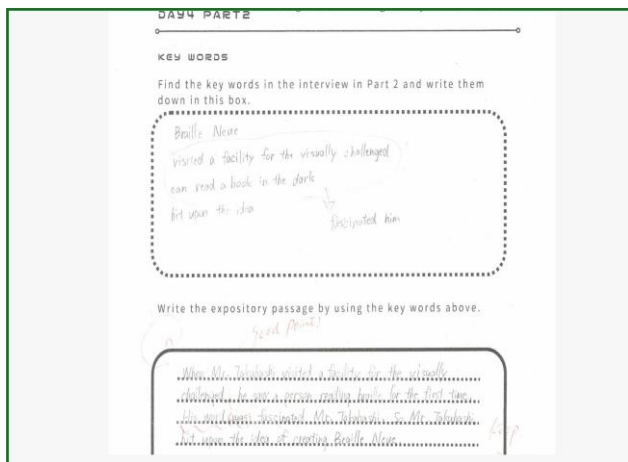


図 5 生徒ワークシートより抜粋



図 6 生徒ワークシートより抜粋

(3) 多様な表現方法を模索させる方法

パフォーマンステストでは、ルーブリックを活用して生徒に目標を示し、創造性などの観点を重視する評価を行っている。今回は、リーディングのパフォーマンスを主軸において定期考査で評価した。加えて、グループで協働して、説得するプレゼンテーションを行うパフォーマンスも行った。さらに、教科横断的な取り組みとして、本校の特徴的な取り組みである「生徒授業」（学んだ内容を他の生徒に向けて授業をする取り組み）を実施し、生徒同士で学びを共有する機会を設けた。このように、生徒の挑戦の場となる多様な場面設定を行うことで、生徒は、目的や状況、場面に必要な表現方法を模索したと考えている。

HRNo. () Name ()	ハンバーガー ルーブリック 相手を説得するプレゼンテーション				
Perspective (視点)	コンピュータデザインの特徴がはっきりとあり、分かりやすく伝えられている	コンピュータデザインの特徴がはっきりとあるが、分かりにくい	コンピュータデザインの特徴がはっきりとあるが、分かりにくい	コンピュータデザインの特徴がはっきりとあるが、分かりにくい	コンピュータデザインの特徴がはっきりとあるが、分かりにくい
Structure (文の構成)	相手を説得するのに効果的な文の構成で伝えられている	相手を説得するのに効果的な文の構成で伝えられているが、構成が不明	相手を説得するのに効果的な文の構成で伝えられているが、構成が不明	相手を説得するのに効果的な文の構成で伝えられているが、構成が不明	相手を説得するのに効果的な文の構成で伝えられているが、構成が不明
Persuasiveness (説得力)	目的を達成するための説得力が強い（一貫した理由がある）	目的を達成するための説得力が弱い（一貫した理由がない）	目的を達成するための説得力が弱い（一貫した理由がない）	目的を達成するための説得力が弱い（一貫した理由がない）	目的を達成するための説得力が弱い（一貫した理由がない）
Delivery (プレゼンテーション力)	目的を達成するために適切な大きさ・アイコン・グラフ・表・図を用いている	目的を達成するために適切な大きさ・アイコン・グラフ・表・図を用いているが、使い方が不明	目的を達成するために適切な大きさ・アイコン・グラフ・表・図を用いているが、使い方が不明	目的を達成するために適切な大きさ・アイコン・グラフ・表・図を用いているが、使い方が不明	目的を達成するために適切な大きさ・アイコン・グラフ・表・図を用いているが、使い方が不明
Cooperation (協働力)	グループで協働してプレゼンテーションを行っていることが伝わる	グループで協働してプレゼンテーションを行っていることが伝わるが、協働が不明	グループで協働してプレゼンテーションを行っていることが伝わるが、協働が不明	グループで協働してプレゼンテーションを行っていることが伝わるが、協働が不明	グループで協働してプレゼンテーションを行っていることが伝わるが、協働が不明

図 7 説得するプレゼンテーションルーブリック

After the lesson...

グループで文章に書かれているAdjustable deskの利点をまとめ、他の利点も加えて、自分たちの意見をまとめた。

校長先生とALTの先生の前で「学校にadjustable deskを導入してほしい！」と説得プレゼン(1分)

図 8 グループプレゼンテーション

人とむきあう

35HR 文系 文系選択者が英語読解の授業で学んだ内容を理系選択者へ授業を行う

図 9 クラス内生徒授業

世界とむきあう

図 10 中学生体験入学で生徒授業

3. 実践の結果

考査や学力テストなど定量的な計測において、短期的に結果を出すことは難しいが、多様なアプローチを行うことによって、どの学力層においても主体的に学習に取り組む態度は、継続的に伸びていると感じている。質としての計測はアンケートへの回答を分析することによって行なっている。

人とむきあう

35HR 文系 英語読解選択者が
英語読解の授業で学んだ内容を
理系選択者へ授業を行う

本日生徒授業を実施して
どのような感想を持ちましたか。

言いたいことを限られた時間で言う
こと、後々「ああ言えば良かった」、
「こう言えば良かった」など、
後悔もあったが、今自分の出せる最
大の言語能力を発揮できたと思う。

いざ理系の前で授業するとなるととても緊張して声
が震えましたが、みんなが理解出来るように工夫
して準備したことを思うように伝えることが出来て
達成感を感じました。1回でも大変だったのに先生
方はこれを毎日何度もしているのかと思うと、1回
1回の授業をより大切にしなければいけないと思
いました。

図 11 生徒アンケート回答

世界とむきあう

2. Ms. Kubo から中学生体験入学の先生役を誰かしませんか。と言われた時から名乗り出るま
での心境は？

理系に向けて授業ができたし、やってみたらできるかも！楽しそう！

3. 中学生体験入学の授業の準備をしている時の心境は？

何をすれば中学生は楽しんでくれるのか。本道にこれで楽しいのかな。わかりやすいかな。全員が楽しめる、レベ
ル差が生まれすぎないかな。

4. 中学生体験入学をしてみた後の感想は？

思っていた以上に中学生が楽しそうにしてくれて、中学生と話したりもできて、逆に自分が元気をもらった。

5. 今後学んだことをアウトプットする機会があればどんな工夫をしたい？

自分が学んだことを誰かに伝えるという機会で、どうしたらより分かりやすく明確に伝わるかを考えられるようにし
たい。またこのような機会があればぜひやりたい。

図 12 中学生体験入学教師役生徒アンケート回答

4. 考察

このような多様な学習の場面設定は生徒の英語学習に主体的に取り組む態度の育成に貢献したと考えている。アウトプットを前提として、知識・技能を身につけ、思考・判断・表現するには、生徒の動機づけとなるような楽しく、やりがいのある挑戦の場づくりが欠かせない。また、振り返りにより、新たな挑戦意欲を喚起していることがアンケートから読み取れる。

5. 助言者からのアドバイス

指導助言いただいた小松島高等学校堀部教頭からは、学校のミッション達成に向けて教員間で意見を共有し、一丸となって取り組む重要性が指摘された。個々の教員のこだわりはあるものの、学校全体で目指す方向性を共有し、力を合わせることを求められている。また、生徒に本物の学びを実現させるためには、教室の枠を超えた社会との関わりが不可欠であり、そのためには教員間の協力が欠かせないと助言していただいた。

6. 最後に

本校で設定されているスクールポリシーは、校長のリーダーシップのもと教職員有志が中心となり、生徒の学びを充実させ成長に寄与したいという熱い思いで作成された。私は有志の会で作成担当の先生方の思いを聞き、教務課員として生徒に到達目標を伝える立場を担った。伝える経験を重ねるほど、目指す生徒像の重要性を感じている。本発表は英語科の授業探究を発表する場であったが、このスクールポリシーが軸となっていたため説明に時間を割いた。今後もスクールポリシーの達成を目指した教育活動を行えるよう精進したい。

世界とむきあう

【質問6】体験授業の感想を書いてください。

また、【質問4】で③または④を選択した人はその理由を教えてください。

何故かすごくお話しできて楽しかった。授業の準備は自分たちでやる必要はなかった。でも、とても楽しかった。

【質問6】体験授業の感想を書いてください。

また、【質問4】で③または④を選択した人はその理由を教えてください。

お話を聞いて楽しかった。授業の準備は自分たちでやる必要はなかった。でも、とても楽しかった。

図 13 中学生体験入学参加中学生アンケート回答より